

## 「企業価値の持続的向上に向けて」進捗状況

---

2024年8月8日

株式会社INPEX（証券コード：1605）

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報（将来予想に関する情報を含む）を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

2023年8月に「企業価値の持続的向上に向けて」を公表し、各種取組みを実施

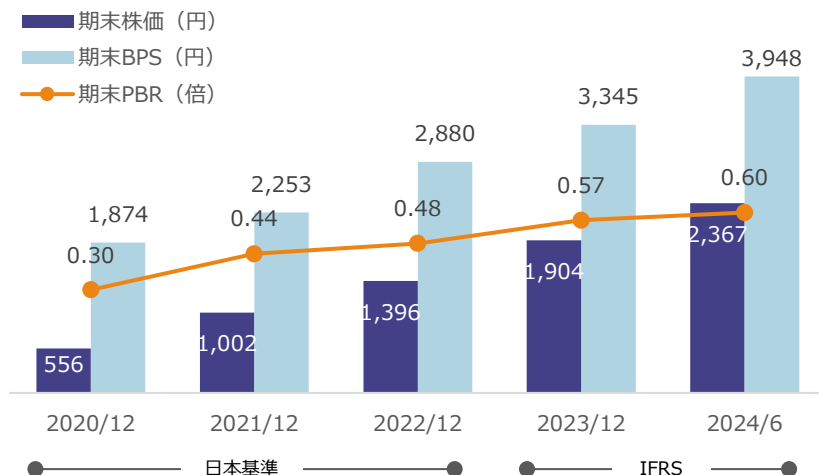
## ディスカウント要因（当社分析）

- 収益性の改善余地
- 座礁資産化リスク
- 株主還元への不透明感

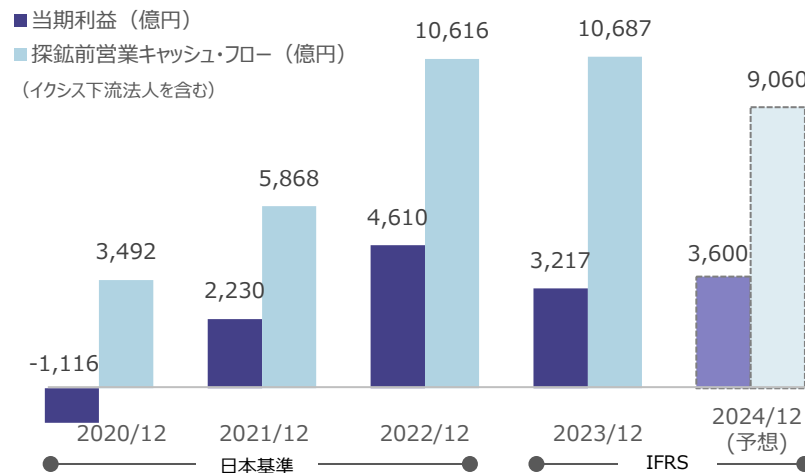
## 取組み

- 資本効率の向上
- 将来事業成長への信認獲得
- 株主還元・投資家対話の強化

## 株価及びPBR推移



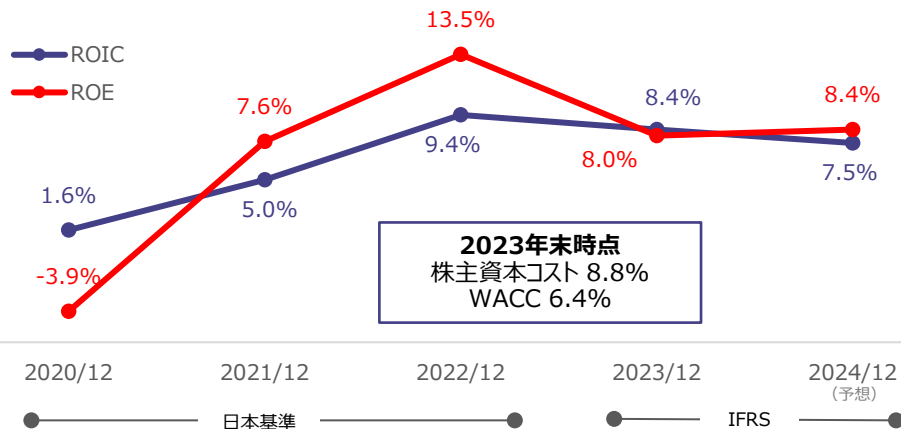
## 業績推移



### ■ ROICの導入及びセグメント別ROICの開示

- 2023年8月より管理指標としてROICを導入し、同年11月開催のInvestor Dayにてセグメント別ROICを初開示
- 2023年12月期はWACCを上回るROICを達成。2024年12月期のROICは7.5%の見通し
- ROE及び株主資本コストを意識しつつ、今後も各事業においてWACCを上回るROICの達成を目指す

ROE、ROICの推移



### ■ 着実な利益成長

- 2024年度の当期利益は前期比 + 11.9%増となる3,600億円の見通し

### ■ コスト削減

- 生産コスト\*は今期予想5.6ドル。現在のインフレ状況下においても、昨年と同程度の水準を維持

\*原油換算1バレル当たりの平均コスト（ロイヤリティ除く）

### ■ 資本政策

- 株主還元の強化（p.12参照）
- ネットD/Eレシオが概ね0.3-0.5の範囲内で推移するよう、適切にレバレッジをコントロール
- 2024年度中間期時点におけるネットD/Eレシオの期末見込みは0.33（p.18参照）

## ■ 石油・天然ガス分野の成長

### イクシスLNG (操業中)

- ・ **安定操業を継続**
- ・ 930万トン生産を目指す（設備能力は構築済み）
- ・ **周辺鉱区を取得**し、収益基盤の強化を推進
- ・ 2030年代の第3トレイン拡張に向け、評価作業を継続

### アバディLNG (FID前)

- ・ 天然ガスは**アジアにおける堅調な需要**が見込まれる
- ・ **10%台半ばのIRR**の確保を目指す
- ・ 2030年頃の生産開始に向け、**サーベイ等の準備作業**を実施中

## ■ CCSによる石油・天然ガス分野の座礁資産化リスク低減

- ・ CCS向けGHGアセスメント鉱区の**震探収録、掘削作業の実施**
- ・ **日本からのCO2受入も視野**に、豪州北部準州政府によるダーウィンCCUSハブ構想への貢献を目指す
- ・ CCS導入により、同ガス田の生産ガスに付随する**CO2の全量を削減予定**
- ・ 将来的には**CCSハブ化**も検討

## ■ 再生可能エネルギーの安定収益化

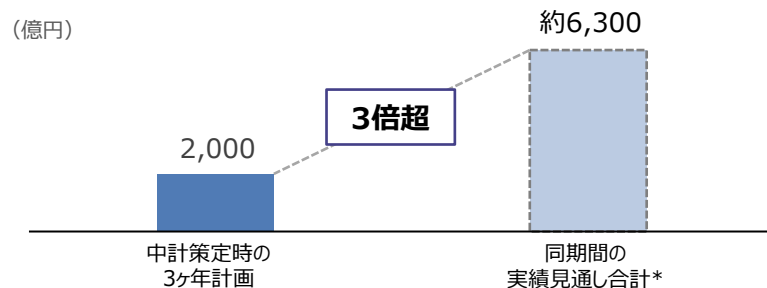
- ・ EGPA社の株式取得後では初となる**クォーンパーク太陽光・蓄電池プロジェクトのFIDを実施**
- ・ 引き続きEGPA社が保有する既存ポートフォリオの運営に携わると共に、更なる発電容量の拡大を目標として**収益性の高い新規アセットを選別・開発する**

## ■ CCS・水素事業等の推進による将来の成長機会の追求

- ・ 政府支援を獲得しつつ**2030年頃までの操業開始**を目指す
  - テキサス州ヒューストン港における低炭素アンモニア事業
  - 首都圏CCS事業、日本海側東北地方CCS事業 等

## ■ 株主還元の強化

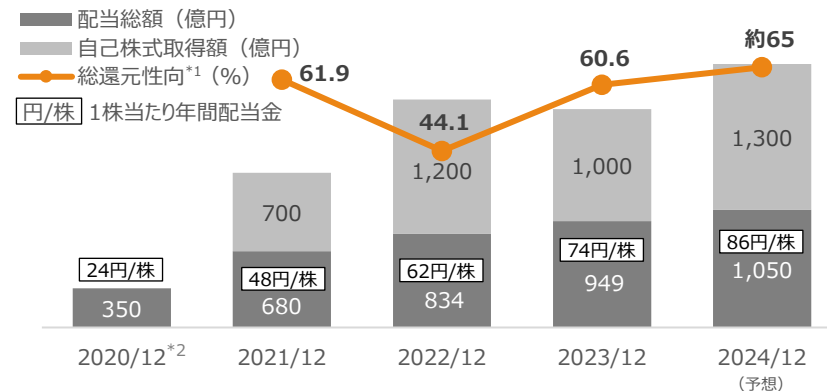
### 2022-2024年度の株主還元



- 株主還元を中計策定時の計画から大幅に強化（資金配分の詳細はp.25-26参照）

\* 2022年度及び2023年度の実績に2024年度予想を加えたもの

### 株主還元の推移



\*1 総還元性向は、2023/12以降はIFRSベース

\*2 純損失のため総還元性向は該当なし

## ■ 機関投資家との対話の強化

- Investor Dayの開催
- 経営陣による対話機会の拡充
- 国内外カンファレンスへの積極的な参加
- コロナ禍でオンライン開催となっていた海外IRの再開
- 海外施設見学会の実施

## ■ 個人投資家向けIRの強化

- オンラインを含む個人向けIR説明会を積極的に開催
- 国内施設見学会の実施

	2023年度 実績	2024年度 前回発表予想 (2024年5月14日)	2024年度 今回発表予想 (2024年8月8日)
1株当たり年間配当金	74 円	76 円	86 円
配当総額	949 億円	約 940 億円*2	約 1,050 億円*2
自己株式の取得	1,000 億円	500 億円	1,300億円 (今回追加 800 億円)
総還元額	1,949 億円	約 1,440 億円	約 2,350 億円
総還元性向	60.6%*1	約 40%	約 65%

\*1 IFRSベース。日本基準では52.5%。  
\*2 自己株式取得後の配当総額見込み。

- 足許の株価が割安な水準と認識していることに加えて、昨年 8 月に公表した「企業価値の持続的向上に向けて」を鑑み、また、2024年12月期の通期業績予想が堅調であることから、自己株式の追加取得と大幅な増配を決定。
- 自己株式取得額（年間）、1株当たり年間配当額のいずれについても、当社過去最高。